

## □ 第1回 伊勢市農村振興基本計画策定委員会 議事概要

1. 日 時：平成29年7月7日（金）14:00～16:00
2. 場 所：伊勢市役所御菌総合支所2階講堂
3. 出席者：委員／徳田、前田、中尾（小山委員代理）、濱口、早川、川井、山本、  
（敬称略） 高橋、浦田、森、前野  
事務局（伊勢市）／鈴木、柑子木、米本、小林、中井、山中、杉木  
（株）都市環境研究所／五十子、西田、山本

### 4. 協 議

#### (1) 開会の挨拶

事務局である農林水産課長の進行により、産業観光部長が開会の挨拶を行った。

#### (2) 委嘱状の交付

伊勢市長の代理として、産業観光部長から委員に委嘱状の交付を行った。

その後、委員から自己紹介を行うとともに、引き続き事務局の紹介を行った。

#### (3) 委員長、副委員長の選出

委員長及び副委員長の選任を行い、委員長に徳田委員、副委員長に前田委員が選任され了承された。

#### (4) 諮問

産業観光部長から諮問書の内容を読み上げ、委員長に手渡した。

#### (5) 委員長、副委員長あいさつ

委員長及び副委員長から改めてあいさつを行った。

#### (6) 伊勢市農村振興基本計画の策定について

##### ① 伊勢市農村振興基本計画の策定についての協議（その1）

委員長の進行により、事務局から事項書「6.伊勢市農村振興基本計画の策定について」「(1)基本計画の目的、(2)現計画の振返り、(3)策定スケジュール」について説明した後、以下のとおり質疑応答を行った。

- ここまでの説明について、何かご質問があればお願いしたい。  
今回、具体的な計画の内容にまでは入っていないが、課題とかご意見とか、あるいは検討すべきところについて、みなさんのそれぞれの立場からご発言願いたい。
  
- 資料1（伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値について）の施策7について、農業生産基盤の整備促進ということで項目を設けていただいているが、農業水利施設の整備と農業用水の確保としての指標、農業用水の普及率は100%近い数字だが、これは国営の路線である。確かに国営宮川用水二期事業は、平成24年度に完成しているが、われわれの路線としては、大（国営）、中（県営）、小（団体営）路線があり、小、中路線については平成17年をはじめとして、現在、進捗率が6割ほどである。そういう状況で実績を100%に近いかたちで上げるというのは、少しいかがなものかと思う。  
→ 先ほどの施策7の目標値については、この計画が策定された時点では、国営事業だけであったため、その事業に基づいて平成28年現在の数値を上げている。ご理解いただきたい。今回の新しい計画では、現在、県営パイプライン事業があるので、そういうものも含めていきたいと思っている。
  
- 資料1の施策4（産地づくり）、施策5（生産・加工・流通・販売の連携促進）については、大事なことだと思うが指標や実績についての記載がない。新しい計画には、これを加味する方向なのか伺いたい。  
→ そのところは、大変大切なところだと認識している。前回の計画策定にあたっては、全ての施策に指標を設定したわけではなかったが、これから計画の骨子をつくっていくので、必要なところに指標設定をしたいと考えている。いただいた意見を今回の計画に反映していきたい。
  
- 計画の到達点の評価は、数字以外のところも含めて整理した上でやっていただければと思う。それぞれ、どういう取り組みがあって、それでどういうことがあったかというところも整理してはどうか。あと、他の方いかがか。
  
- 前回の計画を作成してから、実績値の確認を何度行ったのか。  
→ この指標がある施策については、実は上位計画である総合計画に設定されていた指標を使っている。その総合計画では、毎年、進捗管理を行っていたので、平

成 24 年度までは実績値がある。その後、今回の計画をつくるにあたり、最新の実績値として平成 28 年度の現状値を使っている。

- 私も総合計画に入っていたが、2 次計画はプラン・ドゥ・チェック・アクション（PDCA）を毎年管理してやるとのことだった。年ごとに改善し、ちゃんと進められたプランはなかったのか。また、「こういう具体的な施策をやります」と決めておいて、「それを毎年確認していたらこうなりました」という実績が何か 1 つでもあったら教えてほしい。

→ 要は、毎年毎年のチェックをしていたか、ということだと思うが、この表の中の「地産地消」の推進については、平成 25 年度、26 年度、27 年度の数字がある。当然、その年度、年度の数値は、把握することもできるし、それをチェックし、またそれに対してのアクションも当然必要なことである。地産地消の店については、いろんなお店に働きかけて、それで認定店を増やしていった経過はある。

- 他の方、いかがか。

- 資料 1 の施策 15 の「地産地消」の推進の指標として、「農山漁村における交流活動に参加した人数」とあるが、これはどういう意味か。

→ 産直施設の利用者数である。産直施設は都市と農村の交流を目的として建てられた施設であるので、その施設を利用した人は交流活動に参加したものと解釈している。

- つまり、産直施設を利用した人数と近い数字と考えてよろしいか。

→ そうである。

- 資料 1 の施策 16（食育、スローフードの推進）、施策 17（安全・安心・新鮮な食料の供給体制の確立）というのは、地産地消の推進に関連のある事業だと思うが、16、17 の施策については指標もないが、あえて 16、17 に分けたのは何か検討せよということか。

→ 地産地消の推進の中で、課題の 1 つとして、安全・安心・新鮮な食料の供給体制の確立や食育・スローフードの推進等々を挙げてきた経緯があり、あえて施策 15、16、17 と分けた。

○ 今回、資料1の16、17の施策について具体的にどういうことを行ってきたかを説明してほしい。

→ 数値ではないが、前回の計画書の44ページに施策16、それと45ページに施策17の目標の内容が記載されている。

○ 現計画の達成状況の評価については、今回、指標として出されているもの以外にも含めて、もう少し整理して出してほしい。指標がない部分については横棒のバー(一)だけではイメージしにくいので、次回の第2回委員会には情報としても伝えてほしい。

今回の計画づくりのためのアンケートに関して、事務局から説明をお願いしたい。

## ② 伊勢市農村振興基本計画の策定についての協議(その2)

事務局から事項書「6.伊勢市農村振興基本計画の策定について」「(4)意向調査の考え方、地域住民アンケート(原案)、関係団体アンケート」について説明した後、以下のとおり質疑応答を行った。

○ では、アンケートについてご意見をいただきたい。

○ 先ほどの説明の中で、2,000部という話だったが、この資料3(地域住民アンケート)が農業者に出すアンケートで、資料4(関係団体アンケート)がこれを利用する方に出すアンケートということか。

→ 資料3のアンケートは、住民の方、農業者の方が対象で、2,000通を送る。市で農業者の方を1,000人、市民の方を1,000人選び、市民の方は問1から問16(問35の記入は任意)まで、農業者の方はそこから先の設問(問17から問35まで)も答えるようになっている。

資料4は農業に深い関わりのある団体向けのアンケートの設問項目骨子案で、より深い内容を聞く予定であり、設問自体は現在検討中である。

○ このアンケートの項目、これは、行政の方が考えてつくったアンケートか。非常に農業に精通している人が、目標が分かるようなかたちで自分達でアンケートをつくり、集計する。行政でも、業者にそういうアンケートをつくらせている部門があると聞いたことがある。

→ コンサル等がたたき台をつくり、市の考えも盛り込んで、こういった場でアンケートの内容を検討し、最終的に完成品をつくるというパターンが多いと思う。

○ 福祉のアンケートでは、福祉の事をよく分かっている業者にアンケートの作成と集計をやってもらった部門もある。アンケートというのは、今後の対策として必要だということが分かるようなアンケートでないと意味がないと思う。このあたりに配慮して、効果のあるアンケート調査にしてほしい。

○ 特に直売のことについて、私は現在、スーパーの直販コーナーに出荷している。現在の実績を伊勢市だけで言うと、だいたい 300 戸の伊勢市の農家が入っている。伊勢市に関連している直販店だけでなく、スーパーの直販コーナーのようなものをどのようなかたちで織り込むのか、それがないと何か妙な数字だけが出てきて、おかしいことになる。

地産地消の展開は、業者でも取り組んでいるが、スーパーの直販コーナーのようなものをどのように位置づけるか。関係している農家も多い。どんなかたちでスーパーのやっている内容などを伊勢の農業振興に位置づけていくか。そういうことを入れ込まないと、何かちょこまかした数字になる。

前回の計画でも影に隠れた部分が多い。どう結論を出せとは言わないが、今後、検討材料としてお願いしたい。

○ 最終的に計画づくりに反映できるようなアンケートにしていきたいと思うので、何かそのへんでご意見あればお願いしたい。

○ アンケートの配布は 2,000 通を市民に出し、農家の方は問 16 までは一般市民としての立場で答え、問 17 以降は農家の立場で答えるというやり方なのか。それとも、農家と一般市民とを最初から分けて配布するのか。というのは、最初のほうの設問の内容が農家の方に出していいものか、というようなところがあったので。

→ アンケートを出す際に、農家の方 1,000 人は、あらかじめ市で把握してる職業が農家の人に出す。資料 3 の内容のアンケートを農家の方、市民の方とも共通で 1 つのアンケートとして出す。アンケートを 2,000 通出す中に、農家の方が 1,000 人いるというふうに理解してほしい。

○ アンケート中の大項目の「2. 農産物の購入状況について」は、農家の方は答

えにくいのではないか。

→ 農家の方と言っても同時に市民でもあるので、問1から問16までは、農家の方も一般市民の方の立場になって答えてもらう。

○ これは無作為抽出のアンケートか。農家は無作為でないのではないか。

→ 農家は、無作為ではない。

○ 市民の1,000人は、どのように選ぶのか。

事前に年齢層、居住地域、性別等でチョイスした上でアンケートを送るのであれば、最初の方の設問に違和感がある。また無作為なのであれば設問1（居住地）が細かすぎる。2,000人に対して、地域割りが100少しだと、単純に平均すると1つの地域に20人になる。さらに属性をいろいろ聞いていくと、匿名だとそのへんは少し違和感がある。有効回答が少ないのではないかと思う。

○ 多分、ここでどういう情報を得たいかということだと思う。おそらく、この部分では都市部と農村部などの地域性が分かる情報であればいいんだろうと思う。そういう意味で、言われるようにここまで細かくすると最初に送ったリストが残っている限り、相当特定できてしまうような中身だと思う。

→ 事務局でもいろいろ話しているところだが、伊勢市内は24学区に分かれている。小学校区である。このへんで大枠のところでは捉えるようにさせていただきたいと思う。

○ 農家の普通の方を1,000人抽出すれば、ほぼ高齢者になると思うので、10年後という将来的な展望という中で作為的に選ぶのであれば、できれば若年層の50歳以下の農家の方の比率が多めになるよう、若干、そこは手を加えてほしい。50歳以下の若年層の意見が反映されるようなアンケートになれば良いと思う。

○ 無作為だと90%ぐらいが兼業あるいは高齢農家になってしまうので、今後のことを考えれば、若い人や認定農業者等に比重をかける必要があるのではないか。やはり、今後、担い手として期待できる生産者がどういう意識を持っているかを集計できるようにしたほうが、今後の計画づくりの点では有効な情報ではないかと思う。

→ 現在、伊勢市に 126 名の認定農業者がおり、そちらは 1,000 人の中に入れるように考えている。

○ まず、農家世帯を完全に除いた上で無作為抽出するのか。地域によっては実態はほとんど非農家でも、いくらかの農地を持っていて農家という分類になる場合もあるように思う。都市部から離れたところでは、相当、多くの世帯が農家世帯になってしまうように思う。

→ まず農家を選び、それ以外の市民を無作為で選んでいき、そこに農業者が出てきたら、それをはずすという作業で選ぼうと考えている。

○ 都市住民を無作為に選んだ場合、農産物、食品の購入に関する点で、人によっては、ほとんど買い物していない場合がある。年齢とか性別をある程度、無作為にバランスを取ろうとすると、ほとんど買物をしない人が答える可能性もある。そこは割り切って「あなたの世帯で」とかいう聞きかたをするなど、質問の仕方等を工夫する必要がある。

○ 住民アンケートや関係団体アンケートについては、前回も同様のアンケートをしているのか。

→ 実施している。

○ アンケートの中身についても、だいたい前回と同じような設問で構成されているのか。

→ 前回のアンケートは、住民に対してではなく全て農業者に対してのものである。また、前は基盤整備系の要素が強い内容の設問が多かったが、今回は今の時勢を踏まえ、ハードよりソフトの部分を中心とした内容の設問に変更している。

○ 端的にいうと、アンケートの問 16 の選択肢の 1 から 5 まで、「どこの直売店を利用したか」という質問については、この問いから何をしようとしているのか、ということが大事である。記載されたこの 4 つの施設（サンファームおぼた、民話駅の蘇民、郷の恵「風輪」、いせ産直市場）は、全部一緒の内容の施設ではない。どこに何人行ったことがあるかという集計だけでは意味がない。「こういうところがいいから行く」というようなことがわかる問でないといけない。問 16 だけでなく、他の問についても何をしようとしてアンケートをするのか、という

ことを十分考えてほしい。

- 今回いただいた意見に基づき、事務局のほうでアンケートを出すことになると思う。他に何か。
- 資料1の直販活動の推進の指標が「交流活動に参加した人数」ということに違和感がある。あるスーパーの直販コーナーは素晴らしい。行政としては、一民間企業の取り組みを前面に出すのはしづらいかと思うが、かなり表に出せる事例があると思う。また民間の会社に1つ1つの売り上げを聞くことも難しいとは思いますが、農家がスーパーの直販コーナーにどのくらい出荷しているかということは重要な指標になるのではないか。いかに売るかというところは、非常に大事である。アンケートにそれに関する設問があれば納得できる。「その他」に記述欄もあるが、そのへんは改善の余地があるのではないか。
- 関連して、アンケートの問16はどんな魅力があって買い物に行くのか、というように内容をもう少し突っ込んだほうが、農家にとってもお客さんにとってもプラスになるし、アンケートでも違う効果が出ると思う。
- まだ発言されていない方で何か。何かご意見は。
- いろいろな意見を聞かせていただいたが、まだ、自分自身で正直理解しきれていないところがある。もう少し俯瞰的に大元の農村振興基本計画の中で伊勢市の農村をどう定義するか、というところで疑問を持っている。アンケートも実態のデータも現状認識の話であり、それらから課題をどう見つけるかが、この基本計画でやることだと認識している。あまり細かい議論になるとそこが見えなくなるのではないかと心配している。

私は田舎に住んでいるので、おそらく地域としては農村に該当するだろうと思っているが、「農村」という大元の定義をみんなでしっかりさせた中で進めたいと思う。そのあたりから、事務局と意見のすり合わせをしたい。
- 何かご意見は。
- 農業委員会としては、御菌地区は伊勢市のほぼ真ん中だが、伊勢市の総合計画の中で、農業はどこどこを残すという考えのもとでやってもらったらありがたい。この御菌地区の中で野菜をつくっている産地がたくさんある。農業者としては、それをどのように担い手へタッチしながら、今後、10年、20年を生きてい

くか、ということを考えている。

- 森林事業について何かご意見は。
  - 最初に戻るが、資料1の林業の施策のところで、森林面積の目標値もあるが、なかなか森林が増えてくるということは考えにくいのではないか。この指標というのは必要なのか。また間伐率とあるが、ここには神宮の森は含まれるのか。
  - 森林のことだが、神宮の中にある農地は神宮さんが買って森林に増やしている。
- 先ほどの質問だが、森林の面積はコントロールできず、なかなか増える要素がないので、指標としてはどうかと思っている。あと、間伐については神宮林の面積もこの数字に含まれている。
- あとは、他、いかがか。
  - 関係団体アンケートについては、まずアンケートをして、さらに問題点があれば、例えば特定の人にインタビューをして、もう少し掘り下げるようなかたちで2段階でやってもらえばと思う。
  - 私も同感である。
  - 国には「食料・農業・農村基本計画」というものがある。伊勢市も今回の計画の名称をそのような表現に変えてはどうか。これは提案なので考えてみてほしい。
  - 国の立場で、関係団体アンケートの設問項目の4番（当該団体の近年の農林業・農村施策等に関わる活動状況と評価）に活用していただくデータ等についての意見は言えるが、具体的に伊勢市の農業について国からどうこういうことは難しい。
  - あと、もし特に何もなければ、本日の第1回委員会を終了したいが、いかがか。おそらく、また個別にいろいろご相談することも出てくるとは思うが、その際には、いろいろとご助言等、いただければと思う。  
では、最後に事務局のほうからお願いしたい。
- 事務局から次回の策定委員会スケジュール（9月又は10月初旬開催予定）、

議事録（発言者名非公表）、委員名簿の公表などについて説明を行った後、閉会した。